

# ちば里山新聞

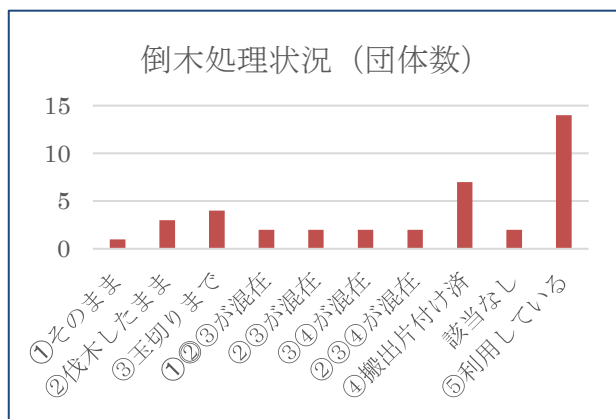
(第58号)  
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## 令和元年台風15号の倒木は今、 どう片付けられ、どのように利用されてるのか！

令和元年9月9日に千葉県に上陸し甚大な被害をもたらした台風15号による風倒木は今、どのように処理されて、またどのように利用されているのかを、ちば里山センター会員74団体にアンケートをお願いし、25の団体より回答を得ることが出来ました。



幹の途中折れの伐木  
 「豊富どんぐりの森」



を、ちば里山センター会員74団体にアンケートをお願いし、25の団体より回答を得ることが出来ました。

倒木処理状態は新型コロナウイルスの影響もあってなかなか進まず、散策路、作業路に危険なため、伐木処理のみしている団体が多く、何とか処理を最後まで終えているのは7団体のみである。今回目立つのが高枝宙ぶり状態(6団体)、幹の中折れ、掛かり木状態の倒木

等が処理を一層困難にさせているようです。

一方、伐木処理した木材の利用は薪燃料に使用(8団体)が最も多く、一般社団法人もりびとでは花卉生産者の温室の暖房機用として納品しているそうです。その他、シイタケのホダ木(4団体)、バイオネストに利用(2団体)、散策路の整備・囲い(4団体)、薪置き場、遊具、テーブル、カービングといったところです。今回アンケートを取ってみて感じたことは台風がもたらした倒木は、見方によってはゴミかもしれませんが、直径40cm以上の大木が土に還るには10年以上の歳月が必要かと思われます。これを有効に利用することにより、利益を生み、里山景観を保全するという大切な資源となります。市原 SaToYaMa よくし隊の『廃棄は原則しない。発生から処分までを自己完結処理としている、自分たちのフィールドで起こった問題は自フィールド内で完結する』という言葉が響いてきます。



貴重植物保護の囲いに利用  
 「椎の森里山会」



半割板を使用し水路の土留  
 「いちはら里山クラブ」



倒木で宙づりになった杉の伐木  
 「いちはら里山クラブ」



立派な薪小屋に利用  
 「里山むつみ隊」



カービングでふくろう  
「里山エネルギー」



テーブルと椅子に変身  
「里山エネルギー」



バイオネストを作る  
「FIC の森」



散策路の階段作り  
「椎の森里山会」

## 千葉県東葛地区の話題

### 松戸で胸高直径 60cm ハリエンジユの倒木講習会 (かかり木回避の見事な伐倒)

2 月 18 日、囲いやま森の会 (代表=吉岐貞俊) は松戸里やま応援団 (代表=野口功・里山新聞 55 号里山じまん参照) 全体に呼びかけて伐倒講習を行いました。この伐倒講習は年一回、ここ数年にわたり行われて、レベルアップを図ってきました。

当日の講習は昨年の台風 15 号、19 号で松戸市内のほとんどの樹林地で被害にあった、倒木処理を進めるのも目的の一つで、樹林地の中折木、掛かり木を効率よく処理したいという「里やま応援団」メンバーの技術的レベルアップを計る意味を含めての講習です。講習生には昨年「里やまボランティア入門講座」第 17 期を修了した受講生 10 人、各期の入門講座修了生で樹林地で活動するボランティア 10 人、囲いやまスタッフ 12 名の計 32 人が参加しました。

午前 9 時 30 分から始まった講習はあらかじめ手順 (\*) と参加者の役割分担を決めたペーパーが配布され、注意事項、柔軟体操を終了すると配置につきました。伐倒木は胸高直径 60cm のハリエンジュ。伐倒開始の呼子が鳴り響き、緊張が走りました。

チェーンソーのエンジン音がうなり、ハリエンジュの切りくずが舞い散りました。呼子が鳴り、作業が中断されると、チェーンソーの水平切りの水平方向、伐倒方向の確認が行われ、続けての斜め切りでは切り口合わせ、伐倒方向の確認が行われ、追い口切りでも確認・指示・修正が繰り返されました。

追い口切りの途中で風に吹かれ揺らぎ始めたため、チルホールを使ってけん引すると、ゆっくりと木が傾き始め、周りの木々をすり抜けて倒れると大きな地響きが起こりました。

伐倒後の切り口を見ながら「受け口の水平切りは伐根直径の 4 分の 1 以上」、「受け口斜め切りは 30 度以上」、「斜め切りと水平切りは必ず合わせる」、「ツルは 10 分の 1、その役割」など伐倒技術を論理的にかみ砕いた解説が加えられると、周りからは「なるほど」という声も聞かれました。

最後の伐倒木処理である枝切り、玉切りなどは参加者全員にて行いました。チェーンソーを担当した参加者は今回の貴重な経験を活かしたいと感想を語っていました。

次回講習は強風で折れた、「宙釣り高枝の処理方法について」を引き継ぐこととし、講座を修了しました。

\* 各所の安全担当を決め 見学者の安全注意 追い口切りの際の逃げ場整備と確保などの安全注意



## 木の安全伐倒をめざす次期リーダー養成講座開催予定(岡部塾)

募集人数:5 名 実施回数:10 回(基本土日開催) 会場:市原米沢の森ほか  
講師:ちば里山センター理事 岡部 正史

一本の木を伐倒するにも枝の張り、斜面の様子、周りの木々との絡みは無いかとあらゆる条件を考えて、伐倒方向を決め安全を確認しつつチェーンソーを入れていくといってもまだ不安の方も多いはず。今回の講師はあらゆる場所で様々な危険木の処理経験を持ち合わせるちば里山センター理事岡部さんが懇切丁寧に一人一人に指導してくれます。



### 【受講条件】

- ①ちば里山センター会員団体の代表より推薦を受けた者
- ②チェーンソー特別教育を補講まで修了者
- ③チェーンソーと安全装具(チャップス、イヤーマフ付ヘルメット、防振手袋)持参出来る者
- ④チェーンソー作業に対応した傷害保険加入者

## 令和2年度の安全衛生特別教育(チェーンソー)及び

### 省令改正に伴うチェーンソー補講年間スケジュールの案内

Web 検索:「千葉県森林組合」→「トピックス」→「2020/3/6年間スケジュール」  
↳「2020/3/6補講のご案内2」



### 補講スケジュール(2.5時間コース)

- ①R2年8月1日(土) 午前9:00~11:40と午後13:00~15:40の2回 場所:植畑研修センター
- ②R2年8月29日(土) 午前9:00~11:40と午後13:00~15:40の2回 場所:植畑研修センター
- ③R2年9月15日(火) 午前9:00~11:40の1回のみ 場所:南部支所植畑研修センター
- ④R2年10月3日(土) 午前9:00~11:40と午後13:00~15:40の2回 場所:植畑研修センター
- ⑤R2年11月28日(土) 午前9:00~11:40と午後13:00~15:40の2回 場所:植畑研修センター
- ⑥R2年12月23日(水) 午前9:00~11:40と午後13:00~15:40の2回 場所:林業サービスセンター

## NPO バランス 21 が千葉市都市文化賞まちづくり部門で優秀賞授賞

千葉市若葉区谷当町の里山「堂谷津の里」にて活動している NPO バランス 21(佐藤聡子代表)が「千葉市都市文化賞 2019」の景観まちづくり部門優秀賞に選ばれました。バランス 21 では堂谷津の里にて耕作放棄地開墾により米づくりによる親子農業体験、山林の整備を行い、里山環境を好む動植物の生態調査を始めています。「他地域から会員制組織形態に参加し、谷津田の多様な自然環境を学び調査研究を進める中で里山を維持する価値を学び合いながら自然を楽しんでいます。持続可能な生産性については今後の検討課題となっています。佐藤代表は授賞について「自分たちの活動だけではなく、地元住民の温かい協力により、生まれ変わった里山として、谷当町の景観全体が評価されたもの」と語られていました。



## NYの子供たちより義援金を贈られた風呂の前里山保存会を訪問 (毎日新聞2月6日千葉版に掲載)

令和元年10月に上陸した台風19号の大雨で、カタクリやキツネノカミソリが自生する斜面が崩れて、土砂は散策路を埋めて下の田んぼまで達しました。どのように復旧するか途方に暮れていた時、突然、米国ニューヨークにて台風の被害を受けたことを知った日本人学校の生徒たちが集めた義援金約4000ドル(44万円)が市原市喜多でカタクリ自生地の保護活動をする市民団体「風呂の前里山保存会」(中山美代子代表)に送られることになりました。義援金を送ったのは、外務、文部科学両省が支援する「ニューヨーク補修授業校W校」(生徒数491人)生徒会で、「千葉の被災地のために義援金を送りたい」という話が持ち上がり、昨年11月にチャリティーイベントを開き、クレープやタピオカなどを模擬店で販売して集めた約4000ドルを義援金として送りたいと県に申し出て、県と市原市が市民団体を紹介しました。中山代表は「子どもたちに感謝し有意義に寄付をさせていただく」と感謝を述べ、既に復旧工事もほぼ終わり、3月に薄紫色のカタクリの花が咲いた写真を生徒たちにお礼の言葉と共に送られます。



崩れた斜面を復旧中

「風呂の前里山保存会」では千葉県を南限とする「カタクリ」の群生地を15年前から保護する活動を続けています。カタクリの落ちた実生芽から一枚葉を毎年出しては枯れ、

球根はだんだん下にもぐり球根の深さは30cmにもなり、8年たつてようやく2枚葉となってから花が咲きます。

風呂の前のカタクリ自生地の維持には多くの里山団体からの協力によって支えられているというお話があり、いかに多くの里山団体から注目されているかがよく分かります。自生地内にはカタクリ以外にもフデリンドウ、ヒトリシズカ、キツネノカミソリ、イカリソウ、ハンショウツル等の多くの貴重植物が四季を通して見ることが出来ます。



フデリンドウ



ヒトリシズカ

### ※※※編集後記※※※

◇今回は新型コロナ問題で慌ただしい中、なんとか第58号の発行に漕ぎ付けることが出来ました。都合により会員の皆様にはメールにての配布になりますが、ご理解の程よろしくお願ひします。今年度より里山新聞は県の委託業務ではなくなったことにより、これまで以上に会員の皆様に沿った誌面作りが出来ますので益々のご支援をよろしくお願ひ致します。(YA)



カタクリ



中山美代子代表

## 里山の風にゆられて ⑭



ムラサキシキブ&lt;紫式部&gt;シソ科ムラサキシキブ属

ムラサキシキブといえば9~11月頃紫の実を思い浮かべるようですが梅雨の時期に咲く花も可憐で風情があると思いませんか、紫の実がムラサキシキブの場合はまばらに付き、盛り上がりに変異が見られますが葉の付け根あたりに規則的に付くのはコムラサキという園芸種です。

写真・文 赤松義雄 R2.6.18 袖ヶ浦市台宿で

### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://www.chiba-satoyama.net/>